



## 助産所部会担当理事挨拶

助産所部会担当理事 天満屋敷 千幸

今年度より助産所部会長、並びに災害対策委員会担当理事となりました。私自身は分娩開業5年の駆け出しですが、周囲にいらっしゃる心を寄せてくださる先輩方に胸を借りるつもりで、この大役をお引き受けしました。

助産所部会は三部会の中でも少数の50人で、分娩取り扱い助産所も出生数も減少の傾向にあります。その中、岸田総理は「異次元の少子化対策」を打ち出しました。今こそ助産師の力が大きく発揮できる時代の到来と感じています。ここ数年、社会はCOVID-19に翻弄され、お産の場面では新しい命の誕生を家族で迎えることも制限される中、私たち助産所は安全を遵守しながら温かいお産も守ってきました。私たちの目指すところは、ただ母子とその家族の幸せのためであり、それは何が起きても揺るぎのないものと信じています。

今日「分娩費用の見える化」「分娩費の保険適用」が進められようとしています。医療介入の無い自然のお産へ導く私たちの助産は「見える化」しにくいものです。私たちのケアが正当に評価され、それが妊産婦の安心に繋がるよう慎重に審議しなければならない案件と考えています。

今年度、助産所部会は「助産所研修制度」を見直し、より利用しやすく受け入れやすい研修にします。この研修は助産所ならではの知恵と技をお伝えできるものと自負しています。多くの皆様に参加して下さることを願っています。部会としての課題は山積ですが、これも社会から必要とされているからこそと考え、皆様と共に歩みを進めていきたいと思っています。どうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。



## 保健指導部会担当理事挨拶

保健指導部会担当理事 金子 弘恵

今年度より保健指導部会の部会長に就任いたしました。保健指導部会の会員は6月現在141名です。私の役割は会員の皆さまの活動の支援と、地域の母子や家族の力になるための研鑽を積むことが出来るよう部会を運営していく事だと思っています。

日本では少子化が進み、政府も少子化対策に乗り出しています。私も部会員の一人として保健センターでの仕事や新生児訪問、自身の開業している助産所での乳房ケア等に携わっておりますが、育児を取り巻く状況も変化してきたと感じます。ひと昔前とは違い、不妊治療も、無痛分娩も、育休を取る父親もめずらしいことではなくなりました。一見、女性の出産、育児の負担が軽くなったように思えるのですが、決してそうっていないのは少子化が示す数字の通りでしょう。どのような支援があれば子を産み、育てることを皆が望み、希望通りに子どもを育てることができるのでしょうか？会員の皆さまも、日々母や父と接する中、同じように思っているのではないのでしょうか。私自身も知識をアップデートし、今の母や父の気持ちを理解し、必要な支援は何かを考える必要があると思っています。助産師は、命を授かること、育むことにいつも寄り添ってきた存在です。今こそ多くの母や父が幸せな育児ができるよう助産師の力を発揮すべき時です。

最後に部会長として、保健指導部会員の皆さまに必要な支援は何かを考えながら一年を過ごしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



## 勤務助産師部会担当理事挨拶

勤務助産師部会担当理事 清水 操

埼玉県助産師会 勤務助産師部会長も2年目を迎えました。理事になり、いろいろな方と接する機会を得て、有意義な1年を過ごすことができました。まだまだ経験不足でご迷惑をおかけしますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ハイブリッド形式で行われた先日の総会では、久しぶりに部会員の皆様にお会いすることができました。直接会う、会話する、ということがとても新鮮でした。自宅にいながら会話のできるツールも便利ではありますが、パソコンの画面越しではなく、直接会うことで生まれるコミュニケーションを今年は大切にしていきたいと、強く思う総会となりました。

今年度勤務助産師部会は『次世代の助産師と助産師会を通して連携を図り、部会の組織活動の強化を目指す』を目標のひとつとして挙げております。助産師間の連携を図る活動を再開し、会員の皆様が勤務助産師部会に所属している意義を感じることができるよう、積極的に活動していきたいと思っております。それでもまだ感染の怖さ、行動制限のつらさは覚えています。感染者が増えてきたと話題になることもしばしばです。パソコンを使って便利に会う、感染対策をして直接会う、様々な方法をうまく工夫し使い分け、皆様と交流できることを楽しみにしております。

今年度もよろしくお願いいたします。

## 研修会報告

プレコンセプションケアに関する研究会 日時：令和5年8月1日(火) 13:30~16:30  
於：埼玉県地域医療教育センター

講師：渡辺 大輔 先生 埼玉大学 基盤教育研究センター 准教授 専門は教育学(セクシュアリティ教育)



渡辺 大輔 先生

本研究会は、埼玉県から委託を受け、県内の思春期教育に携わる多職種同士が、性教育のあり方と課題、展望について共に学び、考える事を目的として開催しております。今年度は「性の多様性」をテーマに開催しましたが、事前申し込みで満席となり、関係者の関心の高さが伺えました。

当日は、渡辺先生から「性の多様性をめぐる教育の課題」として、基礎知識から教育のポイント、発達ニーズ(いじめ、思春期危機を含む)、個別支援の方法などをご講演いただきました。私たちの思考プロセスに大きく影響しているバイアスについて、また「~らしさ」について、大切な気づきを得るお話や、誰もが様々なセクシュアリティを生きるひとりであり、「私たち」皆の問題として考える教育が必要である事などを学びました。後半は養護教諭や教諭を中心に、保健師・助産師等の多職種で、グループワークを行いました。事例対応についてのディスカッションや、学校現場での課題について情報共有を行い、有意義な時間となりました。

受講後アンケートにおいて98%の方が「今後の活動に活かせる内容であった」と回答されました。渡辺先生が、私たちが日頃から意識すべき事や、具体的な配慮や支援の方法まで丁寧にお話下さった事から、この結果に繋がったものと考えます。しかし、常に学び、考え続けなければならない課題であるという共通認識を得たことも事実です。私自身、自分が持つバイアスを自覚し、知識をブラッシュアップし続けることを忘れずにこの課題に取り組んでいきたいと思っています。

(思春期保健事業 運営メンバー 松本 宏美)